

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成27年 9月30日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	第4670103466号
法人名	有限会社 甲南メディカル
事業所名	グループホーム すずらんハイツ
所在地	鹿児島市中央町16-19 (電話) 253-8181
自己評価作成日	平成27年7月1日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/46/index.php
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂町54番15号
訪問調査日	平成27年8月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

鹿児島中央駅近くで、街の中心部に位置するところに事業所があり、商店街も近く交通の便も良い。買い物や身内、友人の面会や外出なども便利である。施設の中には手作りの品を数多く置いて、家庭的な雰囲気作りを行っている。職員も研修や資格取得など介護の質を向上させるために努めている。又、施設の中で楽しく過ごして頂くために、職員は常に笑顔を絶やさないように努めている。サマーボランティアや職場体験、介護実習なども積極的に受け入れ外部との交流を図っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

○ホームは鹿児島中央駅近くに位置し、周りは大型商業施設、病院、美容室、公園、朝市など便利で賑やかな環境の中にある。母体の医療機関をはじめグループ施設が数多くあり相互に交流・連携が図られている。特に母体の医療機関とは密接につながり十分な支援体制が築かれ、利用者や家族からの信頼は厚い。

○地域との交流にも積極的で、近隣の消防署や交番にも運営推進会議への参加を呼びかけている。年間を通じてボランティアや介護・看護の実習生も数多く受入れて、利用者はこれらのふれあいを楽しみにしている。

○管理者や職員とのチームワークは良好で、日々のケアや連絡ノート、毎週のミーティングで利用者状況等を共有し、利用者の思いに沿った支援となるように話し合い、その時々合った柔軟な対応を目指して工夫を重ねている。また、管理者は職員の技能や知識の習得にも非常に熱心であり、資格取得の為の学習を積極的に支援し、利用者ケアへの反映を図っている。

○各種のマニュアルや重度化対応の指針なども整備して実際の運用に役立てるとともに、常に現状に合った内容への変更を繰り返し話し合っている。これらを通じて常に利用者の思いに寄り添い、利用者と共に笑顔で接しながら自分の家で暮らすような生活の実現を目指して努力を重ねている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念は1階エレベーター前、二階リビングや3階スタッフ室に掲げ、常に職員が眼にして自分自身を振り返り、理念に基づいて介護が実践できるように心がけています。	ホームの理念に沿って、利用者と常に笑顔で接し、地域と関わり合いながら我が家で生活するような暮らしの実現を目指して支援に取り組んでいる。理念は掲示並びに名札の裏にも記載して周知を図り、毎年見直しの話し合いも行っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常の買い物は近くの商店を利用して地域の方々と関わりを持つように努めている。小、中、高のボランティアや介護実習、職場体験を受け入れ交流を持つようにしている。	町内会に加入し、案内される清掃活動や草取りなどに参加して積極的に交流を図っている。法人で開催する夏祭りやビハーラ(西本願寺派僧侶による癒やしの活動)ではグループの施設とも交流し、ホームではサマーボランティアや中高校生の介護実習・看護実習・職場体験学習を多く受入れ、これらのふれあいを利用者は楽しみにしている。近隣の商店街での買い物でも地域の方々と会話や挨拶を交わしている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	施設入所の相談や認知症の相談などがあれば、丁寧に対応している。近所の方々にもグループホームを理解して頂けるように折に触れ話している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回、民生委員、長寿あんしん相談センター、ご家族の方々に参加していただき感染や災害など、毎回、議題を決めてご意見を伺い施設のサービス向上に活かしている。	会議は家族や民生委員、長寿あんしんセンターの職員、職員等関係者が参加して定期的に開催されている。利用者及びホームの現況や行事・問題点等のほか、毎回設定している感染や災害等のテーマについて活発な意見交換が行われている。内容は職員で共有して、具体的に日々のサービス向上に役立っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	介護保険の更新の手続きやオムツの申請など定期的に市の担当者を訪ねている。年1回の介護相談員も受け入れ、積極的に協力関係を築くように努めている。	毎年介護相談員の受入れを行い、市担当窓口や長寿あんしんセンターとは訪問や電話で、諸手続きや運営・利用者の状況について確認・相談を行い連携を図っている。また、グループホーム協議会や各種の研修会にも積極的に参加して意見交換を行い、サービス向上に取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	職員は年1回の勉強会を通して禁止の対象となる具体的な行為を正しく理解しており、拘束しないケアの実践につとめている。安全を確保しつつ自由な暮らしができるように支援している。	言葉による拘束を含む身体拘束の防止については、日々のケアや毎週のミーティングで繰り返し話し合うとともに、マニュアルの整備や法人・ホームでの研修を通じて理解を深め、ケアへの十分な反映に努めている。居室や玄関の施錠は行わず、職員は連携して見守り、安全を確保しながら自由な暮らしを支援するための工夫に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員研修などを通して高齢者虐待防止法等について学んでおり全職員が虐待防止について理解している。施設内で虐待が行われないように十分注意して防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	研修などで日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、相談などがあれば管理者を中心に対応して必要な支援ができるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時、解約、改定時は随時説明をおこなっている。説明時は声に出しながら説明を行い、納得されたか確認を行いながら、同意を得るように努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	年2回の家族交流会や面会時に直接ご家族から希望や意見を聞いている。出された意見はミーティングなどで話し合い、運営に反映させている。また、1階に苦情、相談箱を設置、2階には第三者委員や行政の連絡先などを掲示している。	利用者の思いは日常会話やしぐさの見守りから、ご家族とは電話や来訪時の会話、また、年2回の家族交流会の際に、話しやすい雰囲気づくりに努めて多くの意見を頂いている。内容は連絡ノートや毎週のミーティングで共有し、サービスに具体的に反映できるように努めている。ご家族にも電話やホーム便りで必要な連絡を行い、信頼関係を築くようにしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	週1回、ミーティングを行い施設長、副施設長、管理者、職員間で意見交換を行っており、出された意見は運営に反映されるように努めている。	管理者は、日々のケアや連絡ノートを基にした対話のほか、毎週のミーティングで職員の意見や提案を聞き取り、業務改善やサービス向上への反映を図っている。また、日頃から声かけも行いコミュニケーションを取りやすい雰囲気づくりにも取り組み、職員の資格取得への支援など資質の向上にも積極的に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	施設長は週1回のミーティングや行事などの際に職員の状況を把握、時にアドバイスをし、やりがいのある職場環境になるように努めている。又、資格取得など各自の向上心を大切に援助している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>毎月、施設内で職員研修を行っている。又、外部への研修も積極的に参加できるように努めている。介護のアドバイスなどその都度対応して育成に努めている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム協議会や長寿あんしん相談センターを通じて同業者との交流や研修の機会を活かし情報交換を行い、施設や職員の質の向上に努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	情報収集を行いながら利用者の希望や不安を聞き取り、要望に応え安心して入居できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の不安や求めていること、希望を聞き、質問等には丁寧に答え信頼関係を築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者や家族の状況や要望を十分把握するように努めている。又、他のサービス利用が必要な場合にも対応できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員全員が利用者と共に生活している者同士であることを理解している。利用者にとできることを手伝っていただき、お互いが支え合いながら暮らせる関係を築いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には面会の機会を多く持つていただき、利用者が安心して暮らせるように支援している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人、友人が自由に面会に来られ、これまでの関係が維持できるように支援している。来訪時には居心地の良い雰囲気作りを心がけている。馴染みのある近所の商店街へ買い物にも出かけるなど関係継続を支援している	本人を取り巻く人間関係などは、入所時の聞き取りや本人との日常会話、ご家族の来訪時の対話などで把握に努めている。利用者の家族のほか、友人・知人の来所時には、リビングや居室でゆっくり過ごせるよう支援するとともに、電話や手紙の取次ぎ、本人が希望する近隣のドライブや商店街での買い物等に同行している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の個性を把握し、利用者同士が関わりの中で良好な関係を築けるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても相談に応じることを伝え、退去後も近況を問い合わせたり、相談に応じている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居時に利用者や家族から希望する暮らしを聞き、職員は家族の協力を得て実現できるように努めている。入居後も日々の関わりの中で利用者の思いに応えるように努めている。	入所時の聞き取り情報やご家族来所時の対話、日常の言葉や所作・表情の見守りなどから利用者の思いや希望の把握に努めている。ミーティングや連絡ノートで共有し、ご家族とも相談しながら、利用者のその時々のお思いに応えられるよう柔軟に対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に利用者や家族、その他の関係者から話を聞き、情報を得るように努めている。入居後も折に触れ話を聞き馴染み深い物をサービスに取り入れるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は一人ひとりに眼を配り、利用者の生活のリズムや心身の状態を把握し、現状に添った生活ができるように支援している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議で利用者、家族、職員、主治医と利用者の暮らしが向上する為の介護方針を話し合い介護計画を作成している。モニタリングは月に1回行い介護計画が現状に即した支援になっているか検討している。	本人や家族も参加した担当者会議で話し合い、主治医の意見や職員の気づき・アイデアも反映させたわかりやすい介護計画を作成している。ケアの経過は介護支援経過に記録し、毎月モニタリングも実施して計画の見直し修正を適切に実施している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌、ケース記録、申し送りノートやひやりハットに記入し、週1回のスタッフミーティングや月1回のモニタリングを通して情報の共有を図り介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診時の送迎や買い物、美容室など、利用者の希望や状況により臨機応変に対応し利用者や家族の満足が得られるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が安心して地域で生活できるように警察、消防、民生委員の協力をお願いしている。ボランティアや職場体験、介護実習など受け入れ入居者が安心して生活できるように支援している		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、家族が希望するかかりつけ医で受診できるように支援しており、かかりつけ医と施設は適切な治療が受けられるように情報の共有を図り、緊急時の連携も取れている。	利用前の受診の経過把握に基づき、本人や家族の希望するかかりつけ医への通院や訪問診療を適切に支援している。医師やご家族との情報交換や話し合いはもとより、訪問看護師とも密接に連携を図り、緊急時にも適切な医療が受けられるように体制を築いている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の状態の変化や処方の変更などは、直ちに協力医療機関の看護師と訪問看護師に情報を送り相談、助言を受け適切な受診、看護を受けられるように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には利用者の情報を医療機関に提供し、入院中は頻繁に職員が面会を行い利用者が不安にならないように配慮している。病院関係者からも情報を得て対応可能な段階でなるべく早く退院できるように取り組んでいる。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に対する指針を定め、入居時に家族に説明し同意を得ている。又、状況に応じて利用者と家族、主治医が納得のいくまで話し合いを繰り返し、職員と共にチームで支えられるように取り組んでいる。	重度化や終末期のケアについては、文書を基に基本方針を説明し同意を得ている。また、様々な状況の変化の都度医師やご家族と十分に話し合い、可能な限りの支援・対応ができるように体制を整えている。法人合同やホームでの研修も繰り返し、職員の知識や理解を深める取り組みも行っている。現在は指針の内容も見直し中であり、より現実に沿った支援になるように検討を重ねている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアル作成や研修を行い、緊急の対応ができるようにしているが現実には主治医に連絡して指示を仰ぐようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時のマニュアルを作成し、消防訓練を年2回行うと共に災害時の避難体制を職員間で話し合い、全職員が理解している。又、家族には家族会議や運営推進会議で避難体制を伝えている。	消防署や設備業者の協力を得ながら、夜間想定も含む年2回の避難訓練を実施している。災害対応のマニュアルも整備し、自動通報装置やスプリンクラー等の設置並びに食料・飲料水等の備蓄も問題のない状況である。訓練の内容や避難体制等は、運営推進会議や家族交流会でも話し合いや説明が行われている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者への声かけや接し方は常に丁寧に対応するように心がけている。入浴時や排泄時などプライバシーや個人の人格が尊重できるように配慮した対応に努めている。	居室の保護や排泄・入浴・食事等のケアに際して、利用者の誇りやプライバシーに十分に配慮した丁寧な声かけや対応になるように、全職員が繰り返し確認し合っている。マニュアルの整備のほか接遇や個人情報保護などの研修も行われ、各種の個人記録も適切に管理されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の希望やできること、興味のあることに理解を示し、利用者の納得のいく生活ができるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れは利用者の体調などを配慮し、柔軟に対応している。外出や趣味など利用者の意向を確かめながら決めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	着替え、洗顔、整髪は起床時や入浴後、その方らしい身だしなみができるように支援している。訪問理美容の方に定期的に来て頂き白髪染めなどは希望があれば職員が行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材を使い、季節感のあるメニューになるように努めている。食事は職員も同じテーブルで食べながら味付けや出来栄など話しをしながら食べている。利用者の好き嫌いも把握している。	日々の暮らしで把握できた利用者の好みを、旬の食材を用いて献立や味付けに反映させ、とろみやさざみ食等の工夫も行っている。おはぎやおせち料理等の季節の行事食、誕生会の手作りケーキ、家族会や花見の手作り弁当などの多くの工夫を行って利用者の楽しみにつなげている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の量や水分摂取量は個別に記録されている。排泄状態も参考にしながら健康状態を把握しより快適な生活が送れるように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きやうがいができるようにリビングの洗面所にコップと歯ブラシを個別に準備しており、職員が声かけや見守り、介助を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	夜間はオムツ使用の利用者もいるが、日中はリハパンを使用して定期的にトイレ誘導や介助を行い、トイレで排泄ができるように支援している。排泄チェックを行い排泄パターンを把握するように努めている。	水分摂取や排泄チェック表を活用して、個人の習慣や身体機能に応じた排泄支援となるように工夫を重ねている。支援に際しては、利用者の不安や羞恥心の軽減も兼ねた丁寧な声かけや対応に努め、併せて適切な援助方法や排泄用品の選択なども検討しながら、なるべく排泄の自立に向けた支援となるように取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェックや水分摂取量チェック表などを活用して定期的な排泄があるように努めている。又、排便困難の方には乳製品や内服など個別に対応しており、定期的に排泄があるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	日曜日以外は毎日、入浴できる体制にあり、週3回程度を基本としているが希望があれば入浴やシャワー浴ができる。入浴時も自立されている方や部分的介助など個別援助を行っている。	家族からの情報も活かしながら本人の好みや習慣の把握に努め、基本的には週3回の入浴を支援している。バイタルチェックや皮膚等の観察は丁寧に行い、ゆっくりと対話しながら入浴して頂いている。入浴を拒否される場合には、職員や時間帯の変更、言葉かけの工夫などの対応に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間、眠れるように出来るだけ昼は起きて活動して頂くように支援している。居室で休息される方は室温や居室の明るさに配慮して快適に過ごせるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬のファイルがあり、薬の副作用、用法、用量が確認できるように支援している。くすりの処方変更は業務日誌や連絡ノートに記録して全職員が情報を共有できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の得意な事や好きだったことを利用者やご家族から情報を得ており、一人ひとりの得意な事や役割で気分転換を図れるように支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	利用者の希望に応じて近くの商店街や美容室、イベントに出かけられるように支援している。ご家族と外食や自宅などへの外出を楽しむ機会が持てるように支援している。	利用者の健康状態や天候を見ながら、希望に沿って近隣のドライブや商店街での買い物に出かけている。また、法人の夏祭りやビハーラ、手作り弁当持参の季節の花見なども楽しめるように支援している。一時的な帰宅や外食、美容院などへはご家族にお願いしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>利用者の希望に応じて本人でお金を管理して頂き、買い物が楽しめるように支援している。お金の管理ができない方も買い物時に支払う楽しみが持てるように支援している。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>利用者の希望があれば家族へ電話を掛けたり、家族や友人の方からの電話を取り次いでいる。手紙も利用者が書いたときは出して、届いた手紙は利用者に渡している。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>玄関には季節の花や野菜を植えて成長を楽しみ、リビングには季節感のある手作りのちぎり絵を飾ってある。又、施設全体を清潔に保ち、過ごしやすい空間作りに努めている。</p>	<p>ホームの玄関には季節の花や野菜が栽培されており、リビングは2階で仏壇や神棚が設置され、季節の花飾りや職員と利用者による手作りの大きなちぎり絵、刺繍飾りなどが楽しめる。施設は3階及び4階の居室も含めて静かな環境であり、空調にも十分な配慮が感じられて清潔に保たれている。年間を通じて多くのボランティアや実習生が訪れ、リビングでは利用者との交流が行われている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>リビングにソファや和室があり、利用者が独りになりたい時など、プライバシーが得られるように配慮してある。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた家具などを持ってきて頂くようお願いしており、利用者が過ごしやすいように家具や小物を配置し、花や写真などで利用者が居心地よく過ごせる居室づくりを心がけている。	居室は3階及び4階にあり、全室フローリングでエアコンや電動ベッド・洗面台・棚が設置されている。自宅から持参した家具や写真、時計、小物が思い思いに配置されて、自分の部屋として落ち着いてその人らしく暮らせるようになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	ローカ、トイレ、浴室など手すりがついており安全に移動できるように配慮している。施設内は段差がない設計で車椅子の方もスムーズに移動できるように作られている。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
		○	3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない